

# 陽だまり

vol. 1

2007.10月創刊

財団法人 丹後中央病院

病院長 西島直城

〒627-8555 京都府京丹後市峰山町杉谷158-1  
TEL 0772(62)0791 <http://www.tangohp.com>



## ■ 沿革

丹後中央病院は、昭和16-17年、ちりめんの華やかなりし頃、丹後織物工業組合が中心となり、地元住民が出資し合って建設された。京丹後市のみならず、広く今の与謝野町の方々からも浄財を受け35万円で当院の木造の病棟建設から始まった。

その当時には、大宮町に飛行場があり、広い範囲に当院の診療所があった。当院は当地で、最も歴史のある総合病院であった。

## ■ 市民病院と市立病院

当院は財団法人である。戦前の設立当時の崇高な理念からして、当院は単なる京丹後市の狭い見でなく、広大な京都北部という非常に広い範囲の市民病院的存在であり、市民の市民による市民のための病院でなければならない。また一方、市民病院（公的）ではあっても、市立病院ではない。市立病院なら、行政からの大きな補助金もあり、累積赤字が途方もなく膨らんでも見過ごされるようだが、財団法人は、経常利益が赤字になることは、決して許されない。しかし、医療法人でもなく、財産が個人に所属することもない。

戦前に出来たから町立でもなく、市立病院でもない。地域住民の財産であり、まさに市民病院の名称がふさわしく、市民とともに歩む病院であり、市民の市民による市民のための病院である。

## ■ 最近の情勢

今では、公的病院と認められ、京都大学研修指定病院に指定され、京都大学医学部の学生、研修医の指導を委託され、我々の中には、臨床教授、臨床准教授、京大非常勤講師を拝命した者もあり、押しも押されぬ地域の中核教育病院になった。

しかし、交通の便悪く、他社会から隔絶され、ガラシャ隠棲の歌碑に“身をかくす里は吉野の奥ながら 花なき峰に 呼子鳥鳴く”とあるように、秀吉から身を隠すには絶好の場所だったのであろう。丹後は“大江山いく野の道の遠ければ、”と大江山連峰が城壁のように立ちほだかり、隔離された地域だけに、平穩過ぎて、病院が時代の荒波に対応できなかったのも事実である。しかし、CT、MRIを更新し、64列マルチスライスCTで冠動脈を写し、近々治療用心臓カテーテルが始まります。女性技師に、マンモグラフィー読影医師3名も整備し、麻酔科医師指導医も3名加わり、今日では、常勤医師17人が集まり非常勤あわせて50人の医師が確保できている。救急体制も整え、非採算のリハビリ部門も強化し、20人以上のスタッフとなり、周辺地域に出向しております。

病院長 西島直城



## 西村 一郎 医師

総合診療科・消化器外科 担当

### ■ プロフィール

#### 【資格】

京都大学医学博士  
消化器外科専門医  
日本外科学会専門医  
日本医師会認定産業医  
日本消化器病学会専門医  
麻酔科標榜医  
検診マンモグラフィ読影認定医師  
日本消化器内視鏡学会専門医  
日本リハビリテーション医学会会員  
日本消化器外科学会認定医  
日本精神神経学会会員

#### 【経歴】

京都大学医学部臨床教授  
高槻赤十字病院副院長

### 趣味は何ですか？

陶芸：昔は清水焼の先生に習っていました。  
コーラス：混声合唱団に所属しています。  
ゴルフ：あまりうまくないですが、好きです。

### 最近感動したことは？

外来で患者さんと話したり診察している時に、生き生きした反応が返ってきたとき。  
職員が患者さんに親切に接していること（都会ではあまり見られない）。

### 好きな言葉は？

穏やかに仲良く調和を保つ（思いやりの心が大切であると思う。）

### 丹後中央病院の印象は？

成長期の急性期病院であり、これからが楽しみ。

### この病院にける思い、抱負

院長代行として、院長を支えて院長が活躍されるのをサポートするのが使命だと思っており、病院のためになれる様頑張りたと思っています。円滑に病院が機能するよう、潤滑油の様な存在となれば幸いです。

### ●編集部よりインタビューの感想

真剣に話してくださいましたが、中には冗談もあり、楽しくインタビューすることができました。



# 薬物相互作用をご存じですか？

薬物相互作用とは：種類の違う薬と一緒に併用すると薬の効果が異常に強くなったり、逆に弱くなってしまいます。

薬物相互作用  
《第一弾》

## グレープフルーツについて

グレープフルーツに含まれる「フラノクマリン」という物質が薬を分解する小腸の酵素（CYP3A4）の働きを阻害します。よく知られる薬では、降圧剤（血圧を下げる薬）の「カルシウム拮抗薬」がグレープフルーツの影響を受けやすいのです。

グレープフルーツジュースで薬を飲んだり、グレープフルーツを同じ頃に食べると、血液中の薬の濃度が上昇してしまう（薬が効き過ぎる）危険があります。《高齢者では特に、併用には注意が必要です。錠剤を10倍も20倍も服用したことになり、上記の降圧剤では血圧が下がり過ぎる事があり、危険です。》

●グレープフルーツと一緒に飲んではいけない物●  
カルシウム拮抗剤

その他 コレステロールを下げる薬や免疫抑制剤・うつ病などがあります。



## 当院の行事食

月に一度その月の行事に合った献立があります。

例) 8月は地藏盆



ちらし寿司／すいとん／きゅうりの酢の物／スイカ



おかゆ（全粥）／マグロのさしみ／そうめん／スイカ

### 【行事食に対する感想】

- とても食欲をそそる盛り付けでした。
- 今日のように、メニューに変化があれば楽しいです。
- いつもおいしく頂いています。
- おいしいお寿司をありがとうございました。
- 全体的に野菜が少ないので、副菜（野菜料理）を一品増やして欲しい。

さまざまな意見が有りましたが、おおむね好評でした。





# リハビリテーション科の紹介



当院では、骨折や変形性関節症、腰痛症の方、手術を受けられた方、脳卒中の方などを対象に、外来リハビリと一般病棟（急性期）リハビリ、そしてリハビリを専門的に行う回復期リハビリテーション病棟（50床）を設けています。そして、患者様がより快適でいきいきとした日常生活を送っていただけるように、手足の運動や体操、生活動作の練習、言葉の練習などを積極的に行っています。

## ○スタッフ人数

理学療法士（PT）、作業療法士（OT）

言語聴覚士（ST）、その他 総勢19名

## 理学療法（PT）

手足の動きやすさや力強さが得られるように、そして座る、立つ、歩くなどの色々な基本となる動作が行いやすくなるように、運動や体操を行います。また、退院後も安心して生活していただけるように、ご自宅へ伺い、手すりの設置や段差解消など住宅改修のアドバイスなども行っています。



## 作業療法（OT）

主に患者様の状態にあわせた生活動作をリハビリしていきます。例えばトイレへ行く・服を着替える・お風呂に入る・掃除をする・料理をする・身支度を整えるなどの生活に密着した動作の練習を行います。退院やその後の生活に向けて、住宅改修や福祉用品に対するアドバイスを行い、心地よい生活をしていただくことを目指しています。その他にも、手芸活動や折り紙・木工・革細工などを治療に取り入れ、身体だけでなく、心も元気になることを目指しリハビリを行っています。



## 言語療法（ST）

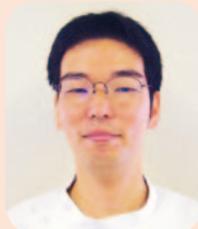
主に言葉の障害がある方に対して、充実した生活が送れるように、言葉の練習や援助を行っています。また御家族や周囲の方にも、言葉の問題や接し方についての説明をして、障害を理解するお手伝いをさせていただきます。

食事の際、飲み込みに問題があってもうまく食べられない方（嚥下障害）を対象に、飲み込みの練習や食べ物の形態のアドバイスなども行います。



リハビリ 19 年度  
新入スタッフです。

初心を忘れず少しでも  
患者様の力になれるよう  
頑張っています。



高崎 淳  
（PT）



志水 美智也  
（PT）



坂根 勇輝  
（OT）



岡本 梓  
（OT）

# 当院の臨床工学技師の紹介



しんぐう ひろき  
氏名：新宮 浩喜  
資格：臨床工学師  
役職：透析室主任  
出身地：京都府舞鶴市  
経歴：京都桂病院（手術室／外科病棟）  
舞鶴市民病院  
舞鶴共済病院（手術室／救命救急  
／透析室）

**は**じめまして、7月より臨床工学士として採用されました、新宮浩喜です。生まれは舞鶴で、天然のワサビが採れる自然豊かな山の中で育ちました。野球が好きで、子供達(野郎3人)の追っかけをしています。

今まで勤務してきた内で、特に思い出深いのは、バラエティーに富んだ整形外科手術や、24時間耐久レースの様な脳外手術、とても苦しかったのですが、当時の経験は今でも心の支えとなっています。

また、2004年の23号台風の時は、一生の宝となる貴重な経験をしました。その夜は、救急当直でした。洪水の急激な増水により、バスに取り残された人達の救護活動に参加するというものでした。

由良川の傍の旅館が救護場所となり、消防隊・救護隊・警察・報道陣等が待機する中、自分たちもローソク数本の灯りの中で毛布に包まり、数少ない情報にピリピリしながら、救助の時を待ち続けました。

ものものしい状況の中、一番目の方(70代女性)が救護に搬送されてきました。このとき驚いたのは、一晩中バスの屋根に取り残され腰まで濁流に浸かり意識が朦朧とする中で、仕事の資料をしっかりとその手に、震えながらも大事そうに抱き抱えられていたことでした。

自分がそのような状況(生と死の狭間)に立たされたなら、自分の命のためにとっくに捨ててしまったかも知れません。女性の仕事に対する思いが、無意識のうちにそうさせたのだろうと、とても感動させられました。

今までお世話になった職場では、貴重な経験を沢山積ませて頂きました。この経験を生かし、仕事を通じて自身の魂を磨くとともに、臨床工学士としてME機器の管理、診療の補助業務を通して、丹後中央病院の医療の安心、安全に貢献したいです。よろしくお願い致します。



## 薬局部門もスタッフ増員されました!!

### ミニインタビュー



薬剤師：田中 豪

出身地：山形県（実家は温泉旅館を経営）

峰山について：山形の地元に近いので、ホッとしています。

病院について：薬剤部の方々をはじめ、病院の皆様にはとても親切にして頂いているので、大変ありがたく思います。

ひとこと：初めての病院勤務で毎日緊張しております。どうぞよろしくお願い致します。



# ご存知ですか？『MDCT』

レントゲン部門も充実してきています。



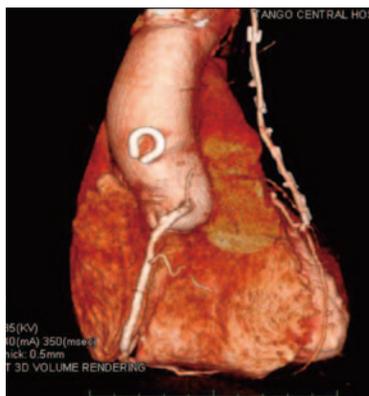
当院では最高の性能を持つ最新鋭のマルチスライスCT（64スライス）を導入しています。それが、MDCTです。

今までのCT装置と比べ検査時間がとても短く、X線の被爆線量も少なくなりました。また、心臓領域のみだけではなく、脳・頸部血管領域や、その他臓器・骨など全身をより細かく検査でき、わずかな病変の発見、診断がさらにできるようになりました。

この他にも目的に応じ、得られたCT画像より、3次元画像（立体的な画像）を作ることできます。

## 心臓を見る

胸が苦しい！と救急車で搬送。動脈硬化で心臓が壊死する心筋梗塞は、このように前触れもなくあなたを襲います。心臓に栄養を送る冠動脈の異常は、従来は「カテーテル（＝プラスチック管）」で、入院して造影剤を心臓に注入し診断することが必要でした。



CT装置の発達により、外来でも血管一本まで調べることが可能になりました。これがマルチ・ディテクター・CT（MDCT）です。当院には世界最高速の

CT装置が07年に導入され、心臓の診断に威力を発揮しています。

検査は、心臓を落ち着かせる冠動脈を拡張させる薬を服用していただいた後に、点滴から造影剤（血液の流れをレントゲンに写るようにする薬）を注入し、10秒で心臓の撮影を行います。それだけで図のように心臓の様子が見えてくるわけです。



循環器内科 副院長 大谷秀夫

## 当院よりお願い

### 面会時間の厳守について

午前中は医療処置等が多く予定されております。平日及び第2、第4土曜日（診察日）の午前中は面会時間となっております。

どうしても面会が必要な方につきましては、1階の正面受付で許可証の交付（右写真）を受けて頂きます様お願い致します。

